

4. 子ども読書活動連絡会

「豊中市子ども読書活動推進計画」は「豊中市子育て・子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」に継承された。その理念に基づき、関係部局・施設・団体・市民と連携する子ども読書活動連絡会を組織。子どもの読書環境の整備と読書活動の推進に取り組んでいる。

令和7年度は会議を2回開催。第1回は、委員の所属の新たな取り組みや課題などの情報交換をおこなった。また、「2025年度とよなかこども読書マップ*」の更新をおこなった。第2回は、「AI時代を生きる子どもたちと読書」についてグループワークと発表をおこなった。

今後も子ども読書活動連絡会の協力体制のもと、子どもの読書活動の推進に取り組む。

* 子どもが身近なところで本を楽しめるよう、豊中市内で本の貸出やおはなし会を実施している施設・場所などを一元化したマップ。

5. 事業報告

◆ ブックスタート事業「えほんはじめまして」

絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを過ごしながらか、心ふれあう時間を持つきっかけとなることを目的に、子育て・子育て支援事業の一環として4か月児健康診査時に実施している。図書館とおやこ保健課、そして「豊中子ども文庫連絡会」・「おはなしボランティアポケット」をはじめとする市民ボランティアが連携・協働し、健診を受ける一組一組に読み聞かせをし、絵本を手渡している。この事業は、絵本を仲立ちとした子育て支援であり、母語が外国語の人や障害のある人を含む、市内のすべての赤ちゃんとその保護者との関わりを持つ貴重な機会である。

各会場のトピックスとして、庄内会場（庄内コラボセンター）では、ゼロカーボンシティ推進課の子ども服リユースや、美化推進課の幼児図画入選作品の展示を同時におこなった。千里会場（千里文化センターコラボ）では、5月に近隣自治体の見学、6月に図書館実習生の参加があった。

フォローアップ事業として「すくすく赤ちゃんタイム」を継続しており、おはなし会と保健師による子育てにまつわる話を組み合わせて各図書館で実施した。

母語が外国語の受診者が増えていることもあり、公益財団法人とよなか国際交流協会の山根絵美さんを講師に迎え、「外国にルーツのある親子への対応」をテーマとしたスタッフ研修をおこなった。

令和7年度も新規ボランティアを募集。13人が登録し、令和8年度からスタッフとして活動予定である。



スタッフミーティング



「えほんはじめまして」庄内会場

◆ 図書館で一時保育 ～ほっと一息 私の時間～

月に1回午前に2時間、保育士が子どもを預かることで、子育て中の方が館内で本を選んだり読んだり、一息つける時間をサポートしている。対象は生後7か月から未就学児。定員は千里、野畑図書館では6～12人、岡町図書館では8～16人。保育料は550円（税込）。

令和7年度は、岡町図書館に1名保育士を増員することで定員を増やし、3館で計36回実施した。また、図書館が取り組む子育て支援事業として、自治体や大学図書館等からの視察を7回受け入れた。

◆ ヤングアダルト（YA）サービス

ヤングアダルト（YA）とは、主に中学生・高校生（12～18歳）の世代をさす。

令和7年度は、執筆担当者をこれまでの岡町図書館だけでなく全館に拡大し、とよなかっ子ライン（こども専用チャット相談／こども安心課）にて司書のおすすめ本を紹介した。

岡町図書館では、子ども読書活動フォーラムのビブリオバトルチャンピオンシップ中学生大会の紹介本展示をおこなった。野畑図書館では過去3年間のYA貸出ランキングベスト10の展示をおこなった。

おもな取り組み	実施館
高校情報パンフレット展示と配布／とよなかっ子ラインにて司書のおすすめ本を紹介	全館
豊中高校ボランティア「志学」の受入れ	岡町、庄内、千里、東豊中、蛍池図書館
中学生職場体験学習の受入れ	岡町、庄内、千里、野畑図書館
中学生職場体験学習おすすめ本 POP 作成・展示	岡町、庄内、野畑図書館
とよなか男女共同参画推進センターすてっぷとの連携展示 「「好き」×「じぶんらしさ」=無限大の未来!!」	岡町、庄内、千里、服部、高川、蛍池図書館
各館の取り組み	
刀根山高校「探求」授業のインタビュー協力／大学生インターンシップおすすめ本 POP 展示／子ども読書活動フォーラムのビブリオバトルチャンピオンシップ 中学生大会 紹介本展示	岡町図書館
庄内さくら学園美術部員によるブラックボード制作／ヒトハコ展示	庄内図書館
YA らぼ(YA! BOOKS 通信発行・おすすめ本 POP 展示・おはなし会)／千里青雲高校図書委員によるおすすめ本 POP 展示／市内高校および私立中学への学校訪問	千里図書館
おすすめ本 POP 展示／「中学生のおすすめ続々」／過去3年間のYA貸出しランキングベスト10を展示	野畑図書館
小中学校（東泉丘、泉丘、東豊台、東豊中学校・第十五、第十七中学校）連携巡回 POP 展示／第十五中学校「15 中いちごフェスタ」への参加	東豊中図書館
第十二中学校生徒によるエリア内小学校での紙芝居会への資料提供、後日生徒の感想を展示／エリア内の小中学校と連携し夏休み中にスタンプラリーを実施／第十二中学校生徒おすすめ本コーナーを設置	高川図書館
箕面自由学園高校ボランティアの受入れ／蛍池図書館リニューアル1周年を祝って蛍池地域の学校司書による「頑張るあなたを応援」YA本の紹介 POP 展示	蛍池図書館

◆ 高齢者サービス

高齢者が社会・地域とつながり、人生をより豊かに生きる社会の実現に向け、以下のように取り組んできた。

施設の環境面ではバリアフリー化に加え、車いす・老眼鏡・リーディングループ・拡大読書器の貸出、血圧測定器・磁気ループの設置など、各図書館の施設環境に応じて整備・提供している。また、市内を巡回する動く図書館には、車いす用電動リフトを搭載している。

図書館資料としては大活字本や朗読 CD を所蔵。庄内図書館の「シニアライフ応援コーナー」、蛍池図書館の「人生 100 年コーナー」、岡町図書館の「医療・健康情報コーナー」では高齢者のニーズが高い資料を 1 か所に集約し、探しやすい資料配置としている。また、市内の高齢者施設 7 団体にリサイクル図書など 332 冊を譲渡した。施設職員によって高齢者向けのおはなし会がおこなわれている施設もあり、紙芝居も含め様々な図書館資料を貸出している。豊中市デジタル図書館においても、健康・食生活・介護などの関連テーマや、シニア向けのデジタル機器・旅行・生活・趣味の本やエッセイなどを提供している。電子書籍は文字の拡大や白黒反転、読み上げ機能など高齢者が利用しやすい補助機能をもつものが多い。また、インターネット経由でどこでも利用できるため、来館が困難な高齢者もアクセスしやすい。今後、電子書籍についても資料の充実と利用の拡大を図っていく。

連携事業としては岡町、庄内、千里、野畑、東豊中、蛍池図書館で、長寿安心課および豊中市キャラバン・メイト連絡会と共催し、「認知症サポーター養成講座」を 6 回実施した。また、千里、服部図書館では健康推進課と共催し、医療健康情報レクチャー「健口で健康長寿に～オーラルフレイルになっていませんか～」を 2 回実施、歯科衛生士による講座およびオーラルフレイルのチェックなどをおこなった。いずれにおいても、図書館からは関連図書の展示・貸出や、図書館職員による医療・健康情報のメディアリテラシーについての啓発活動をおこなった。また、長寿安心課との連携事業として、9 月の認知症月間には動く図書館を含めた全館で、関連図書やポスターなどを展示した。高川図書館では緑地地域包括支援センター高川分室との共催で、月 1 回認知症予防のための「よってほっと高川」を実施。8 月には小学生対象の「認知症サポーター講座 for Kid's」と同時に認知症関連本の紹介展示をおこなった。また、介護予防センターと共催で多世代交流事業「まごころサロン」を 5 回実施。地域の高齢者が講師となり全世代を対象とした季節の工作などをおこなった。

そのほかの取り組みとして、庄内図書館では図書館サポーターとして高齢者の参加もあり、本の修理や装備などに意欲的に取り組む姿が見られた。

◆ 動く図書館「とよ 1 ぶっくる」による巡回サービス

図書館から遠い地域や来館が困難な子どもの通う施設へ、約 3,500 冊の資料を積載した移動図書館車が巡回をおこなっている。令和 7 年度の巡回ステーションは 19 か所、おおむね 4 週間に 1 回の頻度で合計 217 回出動した。

7 月にテレビ大阪番組「大阪 43 市町村を大調査！誰も知らんキング」で移動図書館特集があり、豊中市は積載冊数で第 3 位にランクイン。市町村立では日本最古の移動図書館として紹介されたほか、アルビス旭丘での巡回風景と利用者インタビューが放映された。

苛烈な暑さの夏季も、巡回は継続している。熱中症対策として、体調に無理のない範囲でご利用いただくよう利用者へお伝えする案内チラシを 6 月から配布。7 月～9 月は休憩用ベンチや扇風機を設置し、うちわや保冷剤の提供をおこなうなど、利用者および職員の熱中症対策に取り組んだ。



夏季の熱中症対策



あおぞらおはなし会

気候が穏やかな秋には、おはなしボランティアポケットの協力も得て、絵本や紙芝居の読み聞かせ「あおぞらおはなし会」を 12 か所のステーションで実施。開放的な屋外空間で、大人も子どもも一緒におはなしの世界を楽しんだ。

施設巡回は、児童発達支援センターと府立豊中支援学校の 2 か所。長く地域で活動されてきたおはなしグループ（ミックス JAM、おはなしボランティアポケット）による「おはなし会がやってきた！」を両施設で開催した。来館困難な子どもたちに本の楽しさを届けようと、平成 2 年に始まった本事業は 36 年目を迎えた。

◆ 障害者サービス

障害福祉センターひまわりとの共催で、夏休みに小学生とその保護者を対象に「おやこ点字体験教室」を開催した。普段点字に触れることの少ない子どもたちが自ら点字を打ち、様々な資料にふれる体験を通し、視覚障害者やボランティア活動への理解が深まる機会を設けた。また音訳ボランティアのスキルの維持・向上を目的とした「音訳ボランティアフォローアップ講座」を例年通り実施した。

音点訳図書の製作候補の選定にあたっては例年同様に個別に聞き取りをし、利用者のリクエストも反映できるようにした。製作されたデータは国立国会図書館やサピエ図書館^{*1}を通して全国の利用者に提供しており、新作の音声デージー図書^{*2}はすぐにリクエストが入るなどニーズが高い。また、個々のリクエストに応えるため、所蔵のない音点訳図書については「プライベート音点訳」として各ボランティアに製作を依頼した。

Daigas グループ小さな灯運動から拡大読書器（携帯型）クローバー4、伊藤忠記念財団からマルチメディアデージー図書「わいわい文庫」の寄贈があった。

新規登録やプライベート音点訳が増加し、障害者サービスのニーズの高まりを感じる一年となった。今後も多様化するニーズに応えられるようサービスの提供に努める。

*1 音点訳図書をはじめとする障害者用資料の所蔵施設などが調べられる全国的な書誌データベース。

*2 音声情報を圧縮して記録した録音図書。

◆ レファレンスサービス

資料を用いて、日常の疑問や仕事で必要な情報など、市民のさまざまな調べものをサポートしたり、関連機関や相談窓口・専門家の紹介をおこなったりしている。質問は対面のほか、「e-レファレンス」としてオンラインでも受け付けている。



豊中市立図書館 Web サイト「e-レファレンス」

レファレンス記録の一部は、国立国会図書館レファレンス協同データベースへ登録し、Webサイトで一般公開している。令和7年度に登録したレファレンス事例のうちよく閲覧された事例は、「地方自治法第二百三十八条の四（行政財産の管理及び処分）で定められている行政財産の貸付と使用許可の違い等について詳しく解説した資料はあるか。あわせて事前納付以外の貸付料の納付方法や額の決定方法等の具体的事例がわかればなおよい。」であった。

回答にあたっては、市内所蔵の資料だけでなく、国立国会図書館や大阪府立図書館など、他の図書館のレファレンスや協力貸出の利用をはじめ、国立国会図書館デジタルコレクション、新聞記事や辞事典のオンラインデータベースなどWeb上の情報も参照し、多様な情報の提供と内容の充実をはかっている。

今後も紙・デジタル双方の資料を活用して、市民から寄せられる多様なレファレンスに対応していく。

◆ 行政へのサービス（庁内仕事応援事業）

庁内各部局に対する資料の貸出やレファレンスサービスに加え、ブックリストの配布や庁内サイトへの掲示により、各職階の新任職員研修や課題研修で関係資料の紹介などの情報提供をおこなっている。レファレンスでは、先述の行政財産に係る先行事例・他市要綱などの調査や、業務改善に関する参考資料の調査などの依頼があった。

◆ 団体へのサービス

学校・放課後子どもクラブ・幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後等デイサービス・高齢者施設・障害者施設や、子ども文庫、おはなしボランティアグループ、読書会などの市内の活動グループに資料貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

学校内での児童・生徒のリクエスト対応の支援や、調べ学習に使用する資料の提供などを実施している。公共図書館司書と学校司書との地域館交流会は年に2回開催。公共・学校間およびエリアの学校間での情報交換などをおこない、連携事業を進めている。



「みんなに愛され1周年」展示

野畑図書館では12月に「ありがとう万博～世界の国を知ってみよう～」をテーマに本の展示を学校図書館と同時開催した。資料を見て万博を懐かしむ親子の声が聞かれるなど、市民の関心に合った展示となり、多くの貸出にもつながった。蛍池図書館では3月に連携展示「みんなに愛され1周年」を実施。蛍池地域の学校司書によるリニューアルオープン1周年お祝いメッセージとYA世代を応援するおすすめ本の紹介・展示をおこなった。

<学校図書館支援ライブラリー>

学校図書館の「読書」「学習・情報」「教員支援」の3つの機能をサポートしている。

令和7年度は、「漢字辞典」の追加購入のほか、サポートパックについても内容の見直しをした。特に「のりもの」「国際理解」「ヒトのからだ」「どうぶつ」などは、学校図書館のニーズに応じて新たな資料を購入し、古い資料と差し替えるなど充実を図った。

また、庄内図書館には教員支援資料コーナーを設け、カリキュラム作成や教材づくりに関する資料を収集し、市内の図書館や学校図書館を通じて提供している。

<幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後こどもクラブなど>

幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育施設に団体貸出をおこなっている。季節や行事などに関係する資料や、平和・家族・仕事などがテーマの資料に関するリクエストも多い。各施設の相談に応じ、選書などの支援をしている。放課後こどもクラブへは、申込があった21校に団体リサイクル本「ひと箱おまかせパック」を配達した。

<子ども文庫>

市内の子ども文庫は14文庫。そのうち「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は8文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また、子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根づいている。図書館は長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供するなど文庫活動の支援に努めている。

「子どもと本のまつり」（共催：豊子連）は7月に開催。3つのおはなし会と手作り工作をおこなった。国際交流の会とよなか（TIFA）協力のもと、ベンガル語とマレー語による多言語おはなし会も実施した。11月の「子どもと本のつどい」（共催：豊子連）では、絵本作家の川端誠さんを講師に絵本ライブと講演会「絵本とともに旅をして」を開催した。また半立体作品や版画などの原画展も開催した。



子どもと本のまつり



子どもと本のつどい



おはなしボランティア
フォローアップ研修講座

<おはなしボランティア>

令和7年度も多くのボランティアグループが、回数や人数などに応じたプログラム作りを工夫したおはなし会を実施し、図書館では選書や打ち合わせの機会に相談に応じるなど活動をサポートしている。

図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取り組み事業」（10ページ）を参照。岡町図書館では「子どもと本をつなぐボランティア講座」（全6回）を実施したほか、「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」として、編集者で作家の松田素子さんによる講演「絵本という切符を持って～編集の現場から（絵本誕生秘話）～」を開催した。

＜「りんごの棚」展示セット＞

特別なニーズのある子どもたちの読書の手段を知るために「りんごの棚*」展示セットの貸出をおこなっている。8校の小中学校や、こども園、図書館などで計19回展示がおこなわれた。人権月間に合わせた活用のほか、図書の時間や人権学習、人権参観の際に紹介がおこなわれるなどした。「子どもたちの関心は高く、いい経験ができた」「よく手に取って見てくれた」「バリアフリーについて学べる機会となった」などの声が寄せられた。外国にルーツがある親子など、特別なニーズのある子どもたちに資料を届けるきっかけにもなっており、好評を得ている。

* スウェーデン生まれの「特別なニーズのある子どもたちのための資料を展示した棚」。すべての子どもに読書の楽しさを知ってもらうことが目的で、世界各地に広がっている。



◆ 資料の収集と保存

収集に関しては毎週1回、職員で構成する選書委員会で、市内全図書館の資料の選書をおこなっている。「豊中市立図書館資料収集方針」（図書館 Web サイトで公開）に基づき、市民の主体的な生涯学習活動を支援していくために市民の要望および社会の動向にも注視しながら、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常生活に役立つ資料を幅広く収集している。

また電子書籍については、職員で構成するデジタル図書館運営チームと選書委員会で、デジタルならではの特性を活かした選書をおこなっている。令和7年度は多様な読書ニーズに応えていくとともに、サービスの充実と利用の促進を図るにあたり、デジタル図書館の基本的な操作方法（YouTube 動画）を「豊中市デジタル図書館」に登録。夏休み期間には読書感想文におすすめの本を紹介、千里文化センターで開催された「とよなかデジタルサービスフェア」に電子書籍体験会を出展、令和6年度に続き LINE のリサーチ機能による「豊中市デジタル図書館」にかかるニーズ調査を実施するなど、豊中市デジタル図書館のPRに努めた。

保存については、野畑図書館書庫を豊中市立図書館全体の書庫としている。それぞれの図書館で個々の資料について職員の合議による検討をおこない、保存している。